

事務事業評価シート2 (一般事業)

1 基本情報

事業番号		0145/150715/02/06	事業の種類	4		
年度	20	事務事業名	敬老金支給事業	作成日	重要度	2
予算事業名		敬老事業	担当課名	健康福祉課		
政策名		すこやかに暮らせる、心かようまちづくり				
施策名		高齢者福祉	実施計画への記載	無	主要事業の指定	無
根拠法規及び関連法規		相生市敬老祝金支給要綱				
事業の目的	誰のために(具体的に)	9月15日現在で77歳(喜寿)を迎えた市民				
	誰(何)を対象として	喜寿を祝福する				
	意図(どのような状態にしたいのか)	生きがいを感じてもらう				

2 事業の概要 D0

実施の概要		市が、9月15日現在で77歳(喜寿)を迎えた方に敬老金を支給し、祝福する。				
活動実績	項目	単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度計画
	77歳支給件数	件数	324	324	330	390

3 投入資源

会計区分		一般会計			事業費単位:円				
インプット指標		18年度決算	19年度決算	前年比	20年度決算	前年比	21年度予算	前年比	備考
人員	課長以上職員	0.083	0.085	102.4	0.083	97.6	0.084	101.2	
	主幹以下職員	0.100	0.100	100.0	0.100	100.0	0.100	100.0	
	臨時職員	0.000	0.000	-	0.000	-	0.000	-	
支出内訳	人件費	1,573,434	1,609,685	102.3	1,549,278	96.2	1,563,264	100.9	
	事業費	3,283,397	3,280,242	99.9	3,361,400	102.5	3,944,000	117.3	
	合計	4,856,831	4,889,927	100.7	4,910,678	100.4	5,507,264	112.1	
財源内訳	国庫支出金	0	0	-	0	-	0	-	
	県支出金	0	0	-	0	-	0	-	
	市債	0	0	-	0	-	0	-	
	その他	0	0	-	0	-	0	-	
	一般財源	4,856,831	4,889,927	100.7	4,910,678	100.4	5,507,264	112.1	
	合計	4,856,831	4,889,927	100.7	4,910,678	100.4	5,507,264	112.1	

4 評価指標

[有効性]

指標名1		実績							
指標説明(式)		77歳支給件数							
指標単位	区分	18年度	19年度	前年比	20年度	前年比	21年度(計画)	前年比	備考
件	目標	330	330	100.0	340	103.0	390	114.7	
	実績	324	324	100.0	330	101.9			
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	18年度	19年度	前年比	20年度	前年比	21年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

[効率性]

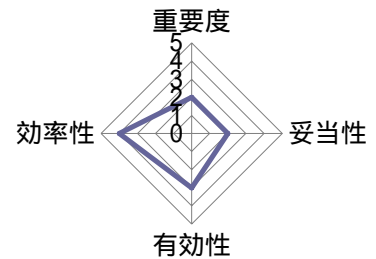
指標名1		支給1件当たりコスト							
指標説明(式)		事業費 / 件数(実績)							
指標単位	区分	18年度	19年度	前年比	20年度	前年比	21年度(計画)	前年比	備考
円	実績	10,134	10,124	99.9	10,186	100.6	10,113	99.3	
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	18年度	19年度	前年比	20年度	前年比	21年度(計画)	前年比	備考
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(20年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	1次評価(係長)	2次評価(課長)
妥当性	目的の妥当性	長寿の祝福が目的であったが、88歳(米寿)は県の長寿祝金とのダブリからH17に廃止し、99歳(白寿)は百歳敬老事業と近接するからH18に廃止し、現在、77歳(喜寿)のみ存続する。しかしながら、平均寿命の延伸に伴い、77歳(喜寿)を長寿として祝う意味が薄れつつある。	2	2
	市民ニーズ	支給対象者のニーズは高い。		
有効性	成果目標(改善)達成度	対象者が対象年齢の到達者に限定されているため、年度により増減が生じ、実績値等で評価することは不適当。	3	3
	市民サービス	人生の節目の歳を市民より祝福される事で、単調な毎日に生きがいを感じてもらえる。		
効率性	コストの節減	H17の88歳(米寿)の支給廃止、H18の99歳(白寿)の支給廃止により、支給コストは低減している。	4	4
	手段の最適性	敬老月間(9月)に伊が直接給付(伊氏から祝福されている意味)することで、敬老の思いを感じてもらうことができ、適正である。		

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
妥当性	目的の妥当性	平均寿命の延伸により、対象を77歳(喜寿)とする事の妥当性を検討する必要がある。また、H19に県の88歳(米寿)を対象とした長寿祝金が廃止され、県下他市町の動向を鑑みながら制度の存廃を検討する必要がある。



7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた21年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
H20	H21予算反映額	0

(2) ヒアリング時指摘事項

--

検討の有無	要検討
総合指標	14